

野田 九条通信

2010年6月号
55

「野田・九条の会」事務局
7122-0502
野田九条の会ホームページ
<http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/>

平和のための展
戦争を知るとは平和を知り

ぶっちゃけトーク
戦争を知るとは平和を知り!!

今年の平和のための戦争展は、若者をまじえ本音で話をする「ぶっちゃけトーク」がメインの催し。去年埼玉の平和展で高校生が大勢参加していたのを見て、なんとか私達も！と企画を練っています。戦争体験を聞いた

し、制裁でなく対話を進めよと発信している民族問題・南北問題研究家の太田昌国さんから沖縄や安保、アメリカとの関係などの話を聞いた後、自由に話し合う場を作ります。そのほか被爆体験や戦争体験の話、朗読劇、歌、

各地域九条の会が工夫を凝らした展示、戦争当時の実物の展示もあります。そして今年も関綾子さんの絵に出合えます。直筆の絵入り扇子を500円で求めていただき、メッセージで参加を募ります。お楽しみに！
今から8月7日、8日をこの平和展のために予定しておいてください。実行委員と戦争当時の物品等募集中！事務局までご連絡ください。

九条への想い

5月12日(水)夕刻、私は東京中野駅から徒歩で10分ほどの所にある「なかのNEROホール」へ向かいました。『死んだらママはな』という映画が、どうしても見ताかったのです。この映画のことは「東京新聞」で知りまし

た。紙面には、益永スミコさんという86歳の女性が1人で駅頭に立ち、「九条を変えるな！再び父を夫を子どもを戦場に送るな！」と訴える姿が掲載されていました。私はその写真に強心を揺さぶられました。しかも

スミコさんの強さ

野田九条の会賛同者 左巻恵美子

映画会場には益永スミコさんご本人も、いらっしやるというではありませんか。映画は期待どおり感動ありませぬ。戦争で儲け

九条無視 沖縄をいつまで踏みにじる気か

沖縄の普天間問題は、結局何ら進展もなく辺野古へ舞い戻り、押しつけられようとしています。政権交代に期待をした沖縄の人々の想いは踏みにじられ、そして自分の問題として大きく運動の流れを作れなかった私達の問題でもあると思います。今後選挙でどのような動きを作れるのか、問われることとなります。野田の市議会議員選挙も終わりました。九条を守る運動の厳しさを感じますが、九条の大切さや戦争と平和の問題を多くの市民と考えていきたいと思

よう「死の商人」や「大資本家」たちが改憲を目論んでいるのは確かなことでしょう。彼らの横暴を、絶対に許してはなりません。少しでもスミコさんの強さを見習い、私も九条を守るために行動しなければと思う今日この頃です。

「九条への想い」への400字程度の原稿をお待ちしています。

今月の野田九条の会

- 定例会 6月12日(土) 2時~4時半
中央公民館講座室
- 署名行動 6月12日(土) 5時~愛宕駅前
- 平和のための戦争展実行委員会
6月27日(日) 1時半~中央公民館講座室

九条の眼

「学ば学ばほど、沖縄の米軍の存在全体の中での海兵隊の役割を考えたとき、(海兵隊の各部隊が)すべて連携している、その中で抑止力が維持できるという思いに至った。」とした鳩山首相。沖縄の民意が置き去りにされて、辺野古に基地が押し付けられようとしています。

『「安保は大事だ」といいながら、負担については口をつぐむ。沖縄ならいいのか。』『「沖縄タイムス」社説が激しい憤りをもって「安保の歪み」、海兵隊の「抑止力」や「地理的優位論」のまやかしを指摘しています。たいへん重い指摘です。(沖縄問題、日米安保についてのお考えなどお寄せください。事務局 FAX 04-7127-1462まで)

「安保の歪み」解消されない不公平 県民に「悔しい思い」

鳩山由紀夫首相が迷走したことで、日米同盟のいびつな姿がより鮮明にあぶり出された。結局、すべてがNIMBY (Not In My Backyard=ニンビー) である。自分の家の裏庭はやめてくれ、という考えだ。多くの政治家が「安保は大事だ」と言うが、負担については口をつぐむ。

「抑止力」「地理的優位性」という検証不可能な言葉を隠れみのにしなが、現状維持にしがみつこうとする。米国の戦略に従って沖縄に基地が集中している、と勝手に理解し沖縄の過重負担を容認する仕組みがある。日本は自らの安全保障の責任を負わない「ただ乗り」を米国から批判されることがある。国内では沖縄に多くを負わせている現状の中で、米軍施設のない多くの本土の地域は「ダブルのただ乗り」となる。このような不公平が許されるわけがない。日々の生活、経済活動の基盤として安全保障がある。戦後日本は米国に安保を委ね、国防を最低限に抑えながら高度経済成長を成し遂げ、今日の繁栄を築いた。それは沖縄の犠牲の上に成立した。

27日の全国知事会では米軍基地を抱えていたり、在沖米軍の移転訓練を引き受けている地域が「すでに責任は果たしている」と主張するなど、鳩山首相が呼びかけた沖縄の負担軽減には非協力的な態度が目立った。「米兵の犯罪、不祥事が多く何の手当てもせず全国にばらまくのか」(大分県知事)「この時期に知事会を招集して全国に火の粉を分散するつもりか」(千葉県知事)。心ない言葉だ。沖縄ならいいのか。くやしく、むなしい気持ちになる。全国に存在する米軍専用施設の75%が国土面積の0.6%に集中する現状を固定化する差別的な構造が堅固にある。これが日米安保の実態なのだ。

この国は自前の安全保障議論を怠ってきた。日米安保をめぐる論争が繰り返され、沖縄に負わせた過重負担の中身について十分な検証はなされなかった。沖縄にある基地の7割強を米海兵隊が使っている。普天間飛行場も海兵隊のヘリコプター基地であり、もっぱら基地問題の議論は海兵隊を沖縄に置く必然性があるかどうかとなる。実に単純なことだが、政治家、外交・防衛の官僚たち、大手マスコミもほとんど議論しない。政府は議論のベースになる情報を持ち得ていないのか、まったく開示しない。

まず海兵隊の体制、任務、活動について「学ば学ばほど」沖縄でなくてもいいことに気付く。いま現在、沖縄から1600人の海兵隊員がイラク、アフガンなど対テロ戦争に派遣されている。残る部隊はタイ、フィリピン、韓国、オーストラリアなど同盟国と共同訓練するために遠征している。6カ月のローテーションで米本国から派遣され、長崎県佐世保に配備されている強襲揚陸艦に乗船して巡回している。今年は2月にタイでの共同訓練があり、グアムで訓練した4月にかけて、普天間に残っていたヘリコプターはたったの2機しかいなかった(宜野湾市の目視調査)。この状況を知れば、「抑止」とか「地理的優位性」という言葉がまやかしであることが分かるはずだ。

中東や中央アジアへ展開するなら米本国から直接派遣すればいい。船がある長崎を軸に沖縄までの距離で円を描くと、九州全域はもとより平野博文官房長官の大阪府、岡田克也外相の三重県、北沢俊美防衛相の長野県のいずれも移転地になり得る。元防衛大臣で自民党の石破茂氏の鳥取県あたりも北朝鮮をにらむにはナイスロケーションだ。鳩山首相の北海道もかつて有力な候補地として日米が検討した経緯が現にある。

沖縄問題の「パンドラの箱」は開けられた。抑止力とか北朝鮮の脅威といった重しではもう閉じられない。

沖縄タイムス 社説 5月30日